

第九十四回フォト句優秀作品（31年4月8日）



花疲れ人疲れして  
一呼吸（アキヤ）



よく無事で  
昭和平成  
生きたねえ

進一郎



はとぽっぽ

まめまきをまつ

まちのあさ(昌康)



朝と夕

明暗替わる

世のならい(隆)

寸 評：今月は画像も句も納得のゆく作品が多かった。

1) 花疲れ人疲れして一休み 中村 晃也

満開の桜に囲まれ、人混みに煽られてくたびれたような鳩の表情を巧みにとらえた。季節性のある作品。

2) よく無事で昭和平成生きたねえ 長尾 進一郎

亀の老夫婦が甲羅を干しながらの会話。一万年生きるはずなのに昭和平成に限定しての話題がウイットに富み微笑ましい。

3) はとぼっぼまめまきをまつまのあさ 松田 昌康

漢字が混ざると読みやすいが（鳩ポッポ豆撒きを待つ街の朝）

百匹を越す恐ろしいほどの数の鳩。毎朝駅前に餌を撒くおばさんを待っているらしい。この写真の撮影者も鳩と一緒におばさんを待っていたのであろう。句も漢字を使わずにまの字を多用した点に工夫がみられる。

4) 朝と夕明暗替わる世のならい 池田 隆

蒼天に突き刺さるような東京カテドラルの尖塔の写真。シンプルな構成の画面だが時間によって陰影の位置が逆転することに言及着目している。「世の習いまで」言う必要はなかったかも知れないが、スッキリした作品だ。



今月の出題者は新田さん。遊園地の回転ジャングルジムの写真。

1) 春の陽の影を回して子らを待つ 新田 由紀子

影を回しての巧みな措辞で上手い句がついた。このまま自由題で出品していたら入選確実だった。

2) ママ達が危険を嫌い閑古鳥 下山 健夫

最近のママのもとでは子供は自由に遊べない雰囲気だ。

3) 被災地の校庭子らの帰り待つ 大月 和彦

なかなか鋭いセンス。時宜に合った句がついた。

4) 入場料いらぬ遊び場閑古鳥 池田 隆

5) 子等去りて公園遊具や春憂い 大越 浩平

上2句はやや説明的でもう一工夫が必要かも。 以上